

期 日 2017.10.30(月)～11.02日(木)

参加者 後藤、高岡、渡邊典、田内、土屋弥、山口、加藤、峰田、鈴木新、鈴木綾、星、佐々木正、佐々木啓＝13名

## 木枯らし一番が吹いた

1日目(10月30日)月・晴(木枯らし一番)

コース 清水町発4:00—紀伊・田辺駅12:00—闘鶏神社12:09—高山寺12:39—秋津王子—万呂王子—三栖王子11:38—八上王子15:19—稲葉根王子16:21—民宿「しおじ」16:45(泊)

歩 数 23665歩(一步＝65cm計算)

距 離 15.4km

宿 民宿「しおじ」—泊二食＝7020—(食事は良い)、弁当はやっていない、浴衣・タオル・歯ブラシなし・トイレはウォッシュレット・運転手割引なし

春の小辺路の続き、第二回熊野古道。台風21号が通過。天気が危ぶまれたが、朝は快晴。ただ、この日「木枯らし一番」の強風。高速道路は、煽られ大変だった。

長泉4:00発。紀伊・田辺駅着12:00。予定より2時間早かった。駅南の「闘鶏(とうけい)神社」(2016年10月、世界遺産追加登録＝勝負の神様)から出発。和歌山県街道マップの「中辺路」は、ここが出発地になっている。

ただ、多くの方は、町並みが多い田辺駅から滝尻王子まで省略するようだ。時間・予算・体力の制約があるが、一度は、最初からキッチリ歩きたい。



闘鶏神社

闘鶏神社は立派な社だった。七五三の男子がいた。トイレを借りて出発。町中を通過し、会津川を渡り、高山寺に寄る。寺は、弘法大師が開創で、多宝塔があり南方熊楠(みなかたくまぐす)

の墓があった。寺から秋津王子と、王子を辿って行く。王子とは・・・

王子（おうじ）とは、熊野古道沿いに在する神社のうち、主に 12 世紀から 13 世紀にかけて、皇族・貴人の熊野詣に際して先達をつとめた熊野修験の手で急速に組織された一群の神社をいい、参詣者の守護が祈願された。従って、その分布は紀伊路・中辺路の沿道に限られる。・・・ネット

来る前、王子には神社があると思っていたが、実際は石碑・銘板があるのみで、ちょっと拍子抜けした。新岡坂トンネルを潜り、八上王子着。コースは柿がたわわに実っていた。オジサンがいたので、Kが突撃交渉し、何個か頂いた。この柿は甘くて美味しかった。ヒョウタンの産地で稲羽根トンネル入口に様々展示してあった。



柿狩り??!!



瓢箪（ひょうたん）展示

岡川を下る。近くに施設があり、牟婁（むろ）と命名されていたが、読み方が難しく分からなかった。稲葉根トンネルを抜けると、稲葉根神社着。

脇は大きな富田川（とんだがわ）が流れていた。王子を見学後、私がコースを間違って反対方向を歩いてしまった。そうこうしている内に、16時を回って終了。今日、4時間稼げて、今後、大いに助かった。

宿は近くの民宿「しおじ」。夕食・朝食・風呂・トイレは、まあまあだが、学生中心の宿で浴衣・タオル・歯ブラシがなく、日本酒を置いてなかった。ただ、持ち込みは自由で、煩いことは言わなかった。Sさん持参の美味しいワインを頂いた。この夏には、静大の学生が泊まったそう。旦那はフレンドリー、奥様も柔らかい方だった。もう一人、ババサマ（旦那か奥様のお母さん）が奮闘していた。



夕食・1



夕食・2

## 2日目（10月31日）火・快晴

コース 起床4:00ー朝食5:00ーバス発5:50ー稲葉根王子発6:08ーローソナーー  
瀬王子ー鮎川王子ー滝尻王子10:04ー不寝王子ー飯盛山（昼食）11:12ー55  
ー高原（たかはら）熊野神社12:34大門王子ー十丈王子ー大坂本王子ー牛馬童子口  
バス停16:20ー民宿「きけうや」16:46（泊）

歩 数 40554歩



距離 26360 km (一步＝65 cm 計算)

宿 民宿「きけうや」一泊二食＝8640－ (食事は良い)、弁当＝650－ (内容は量・質とも良い) 浴衣あり、運転手割引なし

## 滝尻王子から、厳しい山路が続く

起床4:00、朝食5:00、バス発5:50、歩行開始6:08。まだ、うす暗い中、宿から、昨日最終地の稲葉王子までバスで移動。朝はよく冷え込んだ。歩いてすぐの富田川沿いのローソンで昼食を調達。富田川は、果無山脈・安堵山(あんどさん・1184m)から流れる。

概ね富田川に沿って北上。鮎川王子の手前はガイドマップとは反対の左岸(向かって右)を歩いた。ここに大塔(おおとう)中学と鮎川小学校があり、早い登校生と朝の挨拶。学校名は、通学の中学生男子に聞いた。

鮎川新橋を渡り。右岸の鮎川王子に着く。再び左岸に戻り、住吉神社に寄る。オガタマの木とムクロジの大木があった。立派な神社だった。道はこの先から、川に沿って細い自然道になった。一步間違えると、富田川に墜落する危険な道。

昔はこんな所を通ったのだろうか。川向こうに、道の駅「ふるさとセンター大塔」が見えた。道は、蕨尾橋の下を潜る。今日初休憩。約2時間歩いた。看板があり、富田川には大きなウナギがいるらしい。ネットでは、2m・20kgが獲れた記録があった。早速、Sさんが「蒲焼なら何人前できる・・・」と、「美味しい」お言葉をいただいた。



富田川コース



お祭りの幟





北郡橋

危うい路は終わり、北郡（ほくそぎ）バス停車前で舗装道路に出る。一安心。辺りは静かな山村。お祭りらしく、御神前の幟があった。オババが一人畑仕事。挨拶を交わす。吊橋の北郡橋を渡る。吊橋と言っても、車が通れる大きなもの。バンジージャンプが出来るくらいの高度があった。富田川の豊かな清流に目を奪われる。

右岸に渡り、「安珍・清姫」伝説の清姫の墓に寄る。説明看板には恐ろしい伝説が書いてあった。伝説にしても怖い話。果たして、何が言いたいのだろうか。R 3 1 1を進み、ようやく滝尻王子着。立派な熊野古道館があった。何人かは、黒竹製の杖、3 0 0 ーを買った。



梅干し

王子入り口の土産物屋に「梅干し」が干してあった。余りに美味しそうだったので、ひとつ頂いた。道はここから山道になる。記念写真を撮って出発。



滝尻王子

昼食時間だったが、展望台まで頑張る。手前で地元のオジサン二人に会った。今日の宿の情報を得た。ひと上りで、飯盛山（341m）着。展望台の表示はなかった。探したが分からなかった。ここで昼食にした。無風・快晴・高温で幸せな頂。ビアが美味かった。

午後にも上ったり下ったり。大した標高差はないが、案外大変。程なく、高原（たかはら）熊野神社着。立派な神社だった。今日の宿の集落が左下に俯瞰出来た。周辺は、旧旅籠でサイコーの雰囲気。展望の良い喫茶店とかあった。泊まりたくなる場所だった。何人かの外人さんがいた。

また、急登が始まった。グングン上れば展望は益々良くなった。ただ、知らない山域なのでいくら登山を50年経験していても分からなかった。高原池を通過し、大門王子着。雰囲気は熊野古道そのものだった。ただ、人工林が多く残念。一部女子、男子が疲れ気味で遅速。

Sさんと普通に歩いていても、やがて離れてしまう。その都度、待っている。累積待機時間は多くなる。しかし、結果的に計画時間とほぼ変わらない。不思議なものだ。

上多和茶屋跡を上ると、大坂本王子まで長い下り。時間は15時を回った。あまりノンビリも出来ない。前を赤いザックが歩いていた。追いつくと、ロサンジェルスから来た、40歳くらいの女性だった。片言の日本語と英語で交流。今夜の宿は、近露王子。この日、高原王子発と言ったが、相当の遅速だった。Sさんが「エンジョイ・エンジョイ」と激励。





高原（たかはら）高原

下ったら、シンガポールから来たカップルがいた。中辺路もいよいよ国際的になった。ようやく大坂本王子着。ギリギリの時間だった。少し先がR 3 1 1で牛馬童子バス停。今日はここまで。これで明日の見込みが立った。

バスで中辺路町に下って、「きけうや」に到着。「きけうや」は、中辺路町の山村にあった。近くには中辺路中学校もある。熊野古道と同名の町名や中学校があるとは知らなかった。この山村は、今日歩いた高原熊野神社から俯瞰できた。

宿は古い民家と並立していた。右の古い民家の入り口には見事なウバメガシ(?)が枝を伸ばしていた。宿に入りオヤジさんと会った。オヤジさんは70歳くらいの方。早くも(??!!)ビア片手に応対。話が分かる気さくな感じだった。電話の応対も良かった。部屋は清々と広く快適。窓外に田園風景が広がっていた。



「きけうや」



食事の賄は、奥様と娘さんが奮闘。娘さんは、オヤジによく似ていた。夕食はまあまあだった。中に久しぶりで静岡では珍しい、イタドリのゴマ油炒め（??!!）があった。写真下（エビの天ぷらの左）これは以前、四国お遍路で初めて頂いたが、シャキシャキの食感で美味しい。静岡では食べる習慣はない。四国ではワラビより食べられている。不思議なものです。



夕食

### 3日目（11月01日）水・快晴

コース 起床4:00ー朝食5:00ーバス発5:40ー牛馬童子口バス停発6:05ー近露王子6:40ー比曾原王子ー継桜王子ー中川王子ー小広王子ー熊瀬川王子ー岩神王子ー湯川王子ー猪鼻王子ー水呑王子ー伏拝王子ー熊野本宮大社ー湯の峰温泉「伊せや」17:00（泊）

歩 数 45654歩

距 離 29675km（一步＝65cm計算）

宿 旅館「伊せや」ー泊二食・3F＝8910ー、4F＝7830ー（史上最悪の宿）

## 熊野本宮まで遠かった

さてさて、熊野古道は3日目に入った。昨日最終の牛馬童子口バス停から出発。丁度、夜明けだった。雲海の朝霧を俯瞰し、滑りやすく下り難い石畳を行く。下り切れば近露王子。脇に土産物屋があり電灯が点いていたので、皆でゾロゾロ入った。昼間は、コーヒーが飲めるようだ。入口に足湯があった。ここは温泉が出る。泊まれず残念。

朝霧の中を進む。今日も天気は良さそうだ。上空には蒼穹が見えた。イイ感じの様々な店が、軒を連ねていた。先は上りが続いた。上り切れば、朝日をタツプリ浴びた、道中集落に出た。無風・快晴の下、イイ感じの路が延々と続く。Sちゃんが（小辺路の）「果無（はてなし）みたいだ」と言った。確かに、静寂で落ち着いた天空集落だった。「いろり庵」という小さな民宿があった。オヤジさんがいたので、朝の挨拶。

展望所に看板があった。「乙女の寝顔」という陳腐な名称の山があった。確かに、そう見えない訳はなかったが。また、この地は日本オオカミが最後に確認された場所ともあった。



いろり庵



天空集落



山岳展望



継桜王子着。ここは「南方曼荼羅の風景地・継桜王子」と呼ばれている所。「南方曼荼羅」とは・・・。

・・・南方熊楠は「科学と仏教は対立しあうものではなく、科学はマンダラ思想のような東洋の哲理と結合されることによって、かえって自分を完成させることが出来る筈なのだ」と言っている。  
(説明の図があり)

「さて妙なことは、この世間宇宙は、天は理なりといえるごとく

(理はすじみち)、図のごとく(図は平面にしか画きえず。実は長だけ、幅の外に、厚さもある立体のものと見よ)、(図は平面にしか描けない。

じつは高さ、幅の他に、厚さもある立体のものと見よ)、前後左右上下、  
いずれの方からも事理が透徹して、この宇宙を成す。その数は無尽である。

だから、どこひとつをとっても、それを敷衍追求するときは、いかなることをも  
見いだし、いかなることをもなしうようになっている。・・・ネット

(この話は、かなり難しい)

小広王子着。バスから弁当を受け取る予定だった。ところが、ドライバーの機転がなく、受け取れなかった。ドライバーはAが駄目ならB、Bが無理ならCと、常に臨機応変・柔軟に対処すべきなのだが。地図を見ると、小広トンネル東に林道があり、仲人茶屋跡の峠までバスが来れそう。携帯で指示し、上がって貰う。峠に下ると、果たしてバスはいた。弁当が受け取れて本当に良かった。

峠から中辺路本来の路は通行止めだった。平成23年の台風で壊れ、迂回路があった。単独者が「行けるら(伊豆弁??)」と突っ込んだが、結局、踵を返し帰って来た。

林道を少し下り、迂回路に入る。既にこの道は、6年経過している。良く踏まれていた。ただ、小1時間、岩神峠(696m)まで急登だった。途中、2名+1名の外人女子に抜かれた。厳しい上りで岩神峠着。近くに笠塔峰がある。全員揃い休憩。峠から蛇形地蔵まで下りが続く。蛇形地蔵の所は、コース指示が悪く無駄歩きをした。湯川の橋を渡り湯川王子着。昼食時間だが、日当たりが悪く寒いので、三越峠まで頑張る。下って来た単独者が、峠はトイレと東屋があると教えてくれた。



湯川王子



三越峠



Lachy 君

昼食中、若い外人男性がやって来た。傍らに座り、一緒に食事し交流。彼はオーストラリアから来た、**Lachy** 君だった。元サッカーのベッカム似で身長は、185cmだった。名刺を渡したら、後日、メールが届いた。

・・・たかのりさん、こんにちは！

私は Lachy です、オーストラリアから。先週はくまのこで会いました。よろしくお願いします。

しゃしんのいっしょにがおくってをください。ありがとうございます。

あなたにあえてとても良かったです。

Lachy（原文のまま）

午後は猪鼻王子に下る。下りが多くなって嬉しい。下り切り上って、発心門王子着。立派な神社だった。小広王子でバスに乗った、S 夫妻と合流。S ちゃんは、バスを降り歩いた。熊野川を



見下ろす、清々しい路が続いた。正面の山は小辺路あたり。発心門とは・・・。

・・・発心門と言う語は山岳信仰における四門修行に由来する。四門修行においては、山上の聖地に至る間に発心・修行・等覚・妙覚の4つの門を設け、それらを通り抜けることによって悟りが開かれると説かれた。このとき、発心とは発菩提心、すなわち仏道に入り、修行への志を固めることを意味する。すなわち、発心門とは聖域への入り口を意味しているのである・・・ネット



発心門王子



伏拝王子付近



伏拝王子の外人さん



伏拝王子（外人さん撮影）

この辺りに来ると、外人さんが多かった。2組のご夫婦もいた。伏拝王子は、昨夕、会った外人女性もいた。聞けば、今日は宿泊地の近露王子から、バスで来たようだ。この方に集合写真を撮影して貰った。

当初、今日の行程は長いので、発心門王子までと考えていたが、明日、再び来るのは面倒。結局、本宮まで頑張ることにした。春の小辺路時、見覚えのある橋を渡る。丁度、バスも来た。

最後の頑張り。知らない間に多くの方が本宮を目指していた。途中、Mさんが展望台に上った。展望台から「大斎原（おおゆのはら）」が俯瞰出来る。「大斎原」とは・・・。





- ・ ・ ・ 熊野大社本宮から500mほど離れた旧本宮大社社地である、大斎原に高さ33.9m、幅42mの日本一の大鳥居が建っています。

この場所は、熊野川と音無川の中州でしたが、明治22年（1889年）の洪水で熊野大社本宮の社殿が流され、現在地に移築されました。大鳥居（日本一の大きさ）は、平成12年に建設され、年末年始はライトアップされ、幻想的な雰囲気をかもし出しています・・・ネット（写真も）

坂道を下ると熊野本宮着。裏から入るので冴えない。今回は、正面から入ろう。皆さん良く頑張った。今日、終えて良かった。Sさんに教えて貰った、八咫鳥（やたがらす）の「熊野牛王神符」を500円で購入した。バスで今日の宿・湯の峰温泉「伊せや」に向かった。ここで史上最悪の経験をすることになる。

**4日目（11月02日）木・快晴**

コース 起床5：00ー朝食7：00ーバス発8：30ー三島17：30ころ

## 史上最悪の旅館を経験した

帰りのバスは、昨夜泊まった旅館の話題で持ちっきりだった。世の中に、こんな酷い旅館があるとは、夢にも思わなかった。

1. 現在、宿の別のHpは、綺麗な女性が和服・笑顔で宿前に立っている。てっきり、女将が挨拶かと思ったが、これは早とちりで、実は「女将」とは何も書いてない。まぎらわしいHpだ。
2. フロントで対応に出た男性は、頭にタオルを巻いていた。この時点で「嫌な予感」がした。
3. 建物は5階建てだが、エレベータがなかった。
4. 従って、3・4階に泊まったが荷物を階段で持ち上げた。
5. 部屋は、3階に2部屋、4階に3部屋だったが、階で宿泊価格が違った。理由は、3階は木造、4階は鉄筋とのこと。階で価格が違う経験は初めて。
6. 私は、3階だったが、部屋が「カビ」臭く、虫が2匹飛んでいた。「カビ」臭い理由を聞けば、「山だから仕方がない」だった。我々が普段使う山小屋のほうが、余程、山の中だが極めて清潔。
7. トイレが、ウォシュレットでなかった。
8. 「温泉は24時間入れます」で嬉しい！！だったが、何のことはない、掃除をしてないだけの話。湯船の内壁は、ヌルヌルで気持ち悪く、湯床には、砂がはびこっていた。
9. （でも、まあ夕食が良ければ幸せだったが）何と、夕食は「弁当」だった！！夕食が弁当は初めての経験だあ～。勿論、鍋などある訳がな～い！！。かやっろ～！！勿論、朝も弁当でした
10. TVがなかった。若いアベックならともかく、ジジイ同士ではね～！！（TVナシは、考えられない）

以上、先達として反省しきり。確かに価格は高くはなかったが。今後、全て「確認する」ことを学びました。（笑い）以前、四国お遍路で、宿代金前払いがあり、これも驚いたが、今回はそれ以上だった。

宿の前に湯川が流れていた。橋の下の方の川べりに90度の湯が湧いていた。Mさんが朝食のタマゴを利用して、「温泉卵」を作った。美味しかったそうです。また、傍らには東光寺があった。

ご本尊は、薬師如来。宗派は真言宗だった。更に寺上部には、「つぼ湯」（修禅寺・独鈷の湯みたいな感じ）があり、入りがかったが、先日の台風で土砂が湯船に入り、その時は使用できなかった。



噴湯



東光寺・薬師如来



つぼ湯





修験者風のオジサン



朝食風景



湯川の流れ

バスは大きな熊野川を左に見て、順調に走る。やっぱり昨日頑張って良かった。今日は、ユックリ・ノンビリ帰静出来る。また、来春、大辺路を楽しみましょう。



熊野本宮大社

皆様、お疲れ様でした。来春、大辺路を頑張りましょう！！

次回、

大辺路予定（地図は、先日配った、熊野古道NO. 3にあります）

と き 2018年05月14日（月）～17日（木）・  
ところ 熊野古道・大辺路  
行 程

1日目＝清水町4：00－那智駅12：00－那智大社（泊）・・・・・・約2H  
2日目＝那智大社発7：00－石倉峠－越前峠－小口自然の家（泊）・・・・約5H  
3日目＝小口自然の家発7：00－石堂茶屋跡－松畑茶屋跡－熊野神社－川湯温泉・  
富士屋（17000－・日本秘湯を守る会）泊・・・・・・約5H  
4日目＝川湯温泉発8：00－熊野川川下り10：00（語り部つき・3900－  
＝イッパイやりながら、う～ん、楽しそう！！）－帰静

以上





民宿「しおじ」

北郡吊橋







高原熊野神社

伏拝王子

